

特集

## 現代日本の貧困と不平等を問う!

「聖域なき構造改革」を訴え、歳出削減路線を突き進んだ小泉元首相は、退任を前にした2006年6月、「骨太方針2006」の閣議決定に向けた経済財政諮問会議の席上、議論の場で「歳出をどんどん切り詰めていけば『やめてほしい』という声が出てくる。増税してもいいから、必要な施策をやってくれという状況になるまで徹底的にカットしないとイケない」と言い放ったという(東京新聞2008年10月17日記事)。

一体、この「規制緩和」「構造改革」の狙いは何であったのか。地域と社会の悲惨な現実を前に、今日その全貌が露わになってきている。実は、「生産要素(資本・労働・土地)の流動性を高め、それらを利潤率の高い新しい産業へと流れやすくする」ことにあるのだという(萱野稔人氏：津田塾大学国際関係学科准教授)。特に、労働の分野においては、非正規・不安定労働を大量に創り出す一方で、彼らを食い物にする、「貧困ビジネス」が新たな利権構造として登場してきた。政府の規制改革・規制緩和の推進会議を担い、新しい市場のルールを組み立てる者が、実は規制緩和によって生まれるビジネスチャンスに群がり、そこでのプレイヤーとして利益を得るといふ、新たな利権構造をつくり出しているのだ。

る。いまや、働く者の3人に1人が非正規・不安定な労働に従事し、「ワーキングプア」「ネットカフェ難民」という言葉が「流行語」となり、「蟹工船」(小林多喜二)に、我が身を重ねる請負・派遣・フリーターなど「ロスジェネレーション」世代の若者が増えている。一方で、社会的疎外—社会に対する絶望感を増大させ、自殺や無差別殺人などの犯罪に向かう若者は後を絶たない。

しかも、この格差・貧困の問題を“自立支援・自己責任”というキーワードによって“個人”の努力が全てであるかのような議論も一方で展開されている。

昨年より3度にわたってNHKスペシャルで放映された「ワーキングプア」は、多くの人々の共感を呼び、問題の所在を考える機会になるとともに、若年ホームレス、母子家庭、生活保護、地方の崩壊など、身近にありながらも見えにくい課題を鮮明にした。その一方で、貧困の連鎖が進むイギリスでの、子どもから大人まで手厚い保護(公共政策)の網を張り、国を挙げて貧困の撲滅に乗り出している取り組みと比較して、わが国との社会保障・職業訓練制度などの施策の遅れが指摘されている。

「少なく見積もっても正規雇用でない35%の雇用労働者は厚生年金から排除され

ており、つまり国民皆保険という思想は、残念ながら実態としてはもはや完全に破綻している。…さらに深刻な事態は、470万世帯(約1,800万人)が医療保険を納付していないということだ。…問われていることは、実は『医療サービスを保険制度で行うこと自体が、いまや日本社会にとって著しく合理性が欠けている』ということ」である(山本幸司氏：前公務公共サービス労働組合協議会事務局長)。いまや、医療・年金・介護など、国民の「健康で文化的な最低限度の生活」(憲法25条)を保障する公的な社会保障制度から数多くの市民が排除されており、事実上破綻的状况を迎えているのである。

最後のセーフティネットと言われる「生活保護制度」の運用を巡って、北九州では「水際作戦」と称し、申請書類も手渡されないまま、孤独死や餓死が相次いで起こった。昨年6月、病气療養中で生活保護を受けていたにもかかわらず、保護の辞退を強要された男性が辞退届に署名したために、保護を打ち切られ、その3カ月後にミイラ化した状態で発見された事件は記憶に新しい。死の直前まで書き綴った日記には、福祉事務所が辞退届を強要したことへの怒りの他に、10日以上も食事をしていなかった様子とともに、「オニギリ食いたい」という悲痛な叫びが記されていた。

厚生労働省の「人口動態調査」では、1992年から「在宅」で栄養補給ができずに餓死した人の統計がとられているが、1995年から一挙に4倍に跳ね上がり、年間その数は80人以上で推移しているという。実に、この日本社会で5日に1人が在宅で餓死しているのである(路上死などは除外)。

『貧困に陥った人々の生活を安定させ、生活の立て直しの支援をすることは、社会にとって必要不可欠なことであり、すべての人々の生存権が守られることによって社会の安定が図られる』と、この4月「新しい公共と市民自治」研究会で講演いただいた杉村宏先生(法政大学、貧困研究会)は、その著書で述べている。

今回の特集では、現代の日本社会にどのようなにして貧困と不平等がつくられてきたのか、その背景と構造について杉村先生から問題提起をいただき、「生活保護自立支援プログラム」など全国でも先進的な実践を行っている釧路市の生活福祉事務所、そしてその実践に学びながら、この6月より「社会参加推進プログラム」を旭川市から受託運営しているワーカーズコープの実践を報告いただいた。そして、なによりも生活保護を受給している当事者の方々の声を取り上げた。この現代の日本社会で、貧困と不平等を「問う」ことの意味はどこにあるのか、一緒に探っていきたい(編集部)。